

保存版

／ もしものために ／

久米南町

災害

ハザードマップ



令和6年3月

岡山県久米南町

防災情報を入手しよう

災害への備えとして、日頃からテレビ、ラジオといった媒体のほか、町が整備している防災行政無線戸別受信機の設置や、久米南町情報配信メールへの登録など、いざというときに情報を取得できるよう、十分な備えをしましょう。



防災情報の入手先の主なもの

防災行政無線戸別受信機

町からの行政放送をはじめ、火災や豪雨、地震やミサイル攻撃など、命の危険から身を守るための放送を行っています。機器を設置していないご家庭は、申請をご検討ください。機器の貸与は無料です。

URL: https://www.town.kumenan.lg.jp/living/bousai_bouhan/bousai/bousai_kobetsu.html

久米南町情報配信メール

メール

LINE

防災情報や行政情報など、町が提供する情報を入手できます。

URL: <https://plus.sugimail.com/usr/kumenan/home>



Yahoo!防災速報アプリ

久米南町または現在地、設定した地域の災害情報や避難情報を受け取ることができます。

URL: <https://emg.yahoo.co.jp>



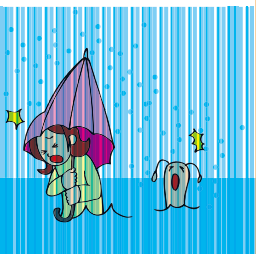
おかやま防災ポータル

気象情報や雨量情報、土砂災害危険度情報、避難情報などをリアルタイムで確認することができます。

URL: <https://www.bousai.pref.okayama.jp/>



雨の強さと目安を知っておこう！

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間に 10以上～20mm未満の雨	1時間に 20以上～30mm未満	1時間に 30以上～50mm未満	1時間に 50以上～80mm未満	1時間に 80mm以上～
				
ザーザーと降る。	どしゃ降り。	バケツをひっくり返したように降る。	滝のように降る。 (ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような 圧迫感がある。 恐怖を感じる。
この程度の雨でも長く 続く時は注意が必要。	側溝や下水、小さな川 があふれ、小規模の崖 崩れが始まりやすくな る。	山崩れ・崖崩れが起き やすくなり危険地帯で は避難の準備が必要。 市街地では下水管から 雨水があふれること も。	市街地では地下室や地 下街に雨水が流れ込む 場合がある。 マンホールから水が噴 出する。 土石流が起こりやすい。 多くの災害が発生す る。	雨による大規模な災害 の発生するおそれが強 く、厳重な警戒が必要。

出典：雨の強さと降り方（気象庁）

気象警報・注意報の種類について

気象庁は、大雨や強風などによって災害が起こるおそれのあるときは「**注意報**」を、重大な災害が起こるおそれのあるときは「**警報**」を、さらに、重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは「**特別警報**」を発表して注意や警戒を呼びかけます。

特別警報・・・大雨、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮

警報・・・大雨、洪水、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮

注意報・・・大雨、洪水、強風、風雪、大雪、波浪、高潮、雷、融雪、濃霧、乾燥、なだれ、低温、霜、着氷、着雪

■土砂災害警戒情報

土砂災害警戒情報は、大雨による土砂災害発生の危険度が高まったとき、市町村長が避難指示等を発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。

■早期避難をお願いします

土砂災害警戒情報等が発表されていなくても、斜面の状況には常に注意を払い、普段と異なる状況に気がついた場合には、直ちに周りの人と安全な場所に避難してください。



参考：気象庁HP「発表する情報の解説」

避難に関する情報

災害発生 の 危険度 を 直感的に理解し避難行動がとれるように、町が発令する避難情報や、気象台が発表する防災気象情報等の防災情報は、5段階の警戒レベルを用いて伝えられます。

5段階の警戒レベルと住民がとるべき行動

警戒 レベル	住民がとるべき行動	市町村の情報	警戒レベルに相当する 気象庁等の情報 キキクル^{注1} (危険度分布)		
			警報等	指定河川 洪水予報	
5	命の危険 直ちに安全確保！ すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない	大雨 特別警報	災害切迫	氾濫発生情報
<警戒レベル4までに必ず避難！>					
4	危険な場所から 全員避難 台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	避難指示	土砂災害 警戒情報	危険	氾濫危険情報
3	危険な場所から 高齢者等は避難 高齢者等以外の人にも必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	高齢者等避難	大雨警報 ^{注2} 洪水警報	警戒	氾濫警戒情報
2	自らの 避難行動を確認 ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。		大雨注意報 洪水注意報	注意	氾濫注意情報
1	災害の心構えを 高める		早期 注意情報 (警報級の 可能性)		

注1：気象庁が提供する、雨による災害発生 の 危険度 を 地図上で確認できる「危険度分布」。気象庁ホームページやテレビの気象情報コーナーなどで公開されています。

注2：夜間～翌日早朝に大雨警報（土砂災害）に切り替える可能性が高い注意報は、高齢者等避難（警戒レベル3）に相当します。

高齢者等避難や避難指示が出ていない場合でも、身の危険を感じた場合は早めに自主避難してください。
避難先までの避難がかえって危険な場合は、自宅の2階以上や山の反対側の部屋に移動するなど、屋内の安全な場所に避難してください。

避難時持出品

日頃から、いざというときにすぐ持ち出せるよう準備しておきましょう。

非常持ち出し品（例）

☐貴重品

- ・預金通帳
- ・印鑑
- ・現金

☐飲料水

☐食料品

☐常備薬

☐懐中電灯

☐ラジオ・携帯電話

☐電池・充電器・予備バッテリー

☐日用品

食事療法の必要な方がいる家庭は

- ☐糖尿病・腎臓病・アレルギー等の疾患に適した食品

小さな子どものいる家庭は

☐ミルク

☐ほ乳びん

☐離乳食（ベビーフード）

☐紙おむつ

ペットのいる家庭は

☐ペットフード

☐ケージ

☐ふん尿の始末用品

高齢者のいる家庭は

☐おかゆなどやわらかい食品

☐とろみ剤（飲み込みにくい方）

リュックに
背負える程度で
両手が使えるよう
できるだけ軽く！

我が家の防災メモ

避難場所	集合場所	緊急連絡先

家族の名前	生年月日	血液型	会社・学校名	連絡先

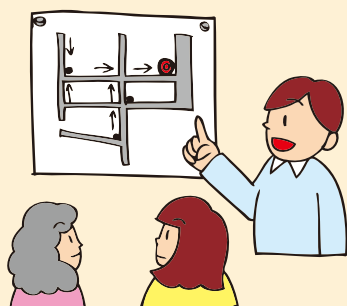


避難時の心得

災害はいつやってくるか分かりません。被害を最小限にするために、いざというときに備えて日頃から災害について家族で話しあっておくことが大切です。定期的に「家族防災会議」を開きましょう。

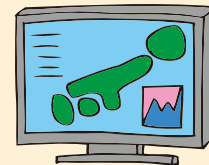
1 安全な避難路の確認を

避難所までの経路（避難路）はあらかじめ自分たちで決めておき、安全に通行できるかを確認しておきましょう。



2 正確な情報収集と早めの行動を

ラジオ、テレビ、携帯電話やインターネットなどで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の降り方や地震の程度などに注意し、危険を感じたら早めに行動することを心がけましょう。



3 避難の呼びかけに注意を

危険が迫ったときには、役場や消防団などから避難の呼びかけをすることがあります。避難の呼びかけがあった場合は、速やかに従ってください。



4 動きやすい服装と2人以上で避難を

避難するときは、動きやすい服装で万一の場合に備え2人以上のグループで行動するように心がけましょう。



5 車での移動は避けて

車での移動は緊急車両の通行の妨げになるほか、交通渋滞をまねきます。特別な場合を除き徒歩での避難を心がけましょう。



6 足元に注意を

浸水している道路を歩くときは、さぐり棒などを持ち、側溝や排水路に転落しないよう安全に注意しながら避難しましょう。



避難行動要支援者のために

■避難行動要支援者とは

災害時に、または災害が発生するおそれがあるときに、高齢者、障がい者や乳幼児など自ら避難することが困難で避難するために何らかの手助けが必要な人たちのことです。

避難時のポイント

高齢者・病気の方

- 緊急のときはおぶって安全な場所まで行く。複数の介助者で対応する。
- 不安を取り除くように声をかける。



車椅子の方

- 階段では、二人以上の介助者が必要で、上るときは前向き、下るときは後向きにして移動する。



耳の不自由な方

- 話すときは、口の開け方をハッキリと、相手にわかりやすいようにする。
- 手話、筆談、身振り、手のひらに指で文字を書くなどの方法で正確な情報を伝える。



目の不自由な方

- 緊急時のときは、声をかけ、正確な情報を伝える。
- 誘導する際には、杖を持っていない方の手で介助者の肘あたりを持ってもらい、半歩前をゆっくり歩く。



自主防災組織に参加しよう!



大規模な災害が発生したとき、消防や救助隊はすぐにはかけつけることができません。「自主防災組織」とは地域の住民が力をあわせ、協力・連携し、災害から「自分たちの地域は自分たちで守る」ことを目的に結成された組織のことです。また、災害時だけでなく平常時にも防災に関する住民への周知など重要な活動があります。

	平 常 時	災 害 時
情報連絡	・ 防災知識の普及・啓発 ・ 情報収集の方法や伝達方法の確認	・ 災害情報の本部への伝達 ・ 住民への災害情報の伝達
消火活動	・ 初期消火訓練の実施 ・ 防火資機材の点検整備	・ 初期消火活動
避難誘導	・ 避難所及び避難路の確認 ・ 避難訓練の実施	・ 避難誘導 ・ 避難所運営
救護活動	・ 普通救命講習の実施と参加 ・ 避難行動要支援者の確認・台帳作成	・ 負傷者等の救出 ・ 救護活動
給食活動	・ 炊き出し訓練 ・ 炊き出し機材の点検整備	・ 避難所での物資の配布 ・ 避難所での炊き出し

南海トラフ巨大地震による震度分布図・ 液状化危険度分布図について

○南海トラフの巨大地震

内閣府に設置された「南海トラフの巨大地震モデル検討会」で検討された地震です。地震規模はマグニチュード9.0で、想定する震源域は駿河湾から日向灘に至る巨大地震です。国が検討したケースのうち、岡山県では陸側のケースでの揺れが大きいので、このケースを対象に推計を行いました。

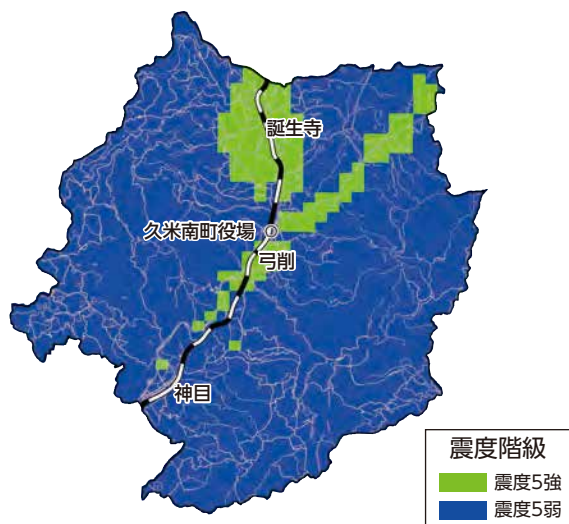
なお、この南海トラフの巨大地震については、その発生時期を予測することができない、発生頻度が極めて少ないものとされているものです。

県では、国が平成24年8月に公表した南海トラフ巨大地震による震度分布、津波浸水域等を受け、国が用いたデータに、県独自に収集した地質データ等を追加し、より詳細な震度分布図と液状化危険度分布図を作成しました。

なお、今回作成した分布図は、現時点の最新の科学的知見に基づき南海トラフにおいて想定される最大クラスの地震が発生した場合の本県における震度分布等ですが、こうした地震の発生頻度は極めて低いものであり、次に発生する地震を示したものではありません。また、地震・津波は自然現象であり不確実性を伴うものであることや、現在の科学的知見には限界があることなどに留意する必要があります。

○震度分布図

国が用いたデータをもとに、深部地盤については国のデータを用い、表層地盤については、県独自に収集した地質データや県内の公共工事等で取得したボーリングデータを追加して、より詳細に把握した上で、岡山県独自に推計を行いました。なお、推計は250mメッシュ（格子）単位で行いました。



※使用したボーリングデータ等について

震度分布図及び液状化危険度分布図は、平成24年3月末までに、公開されている地盤データや市町村等から提供されたボーリングデータを使用して作成したものであり、本県で集める過去一定時点のデータ等により判断したものです。したがって、推計に用いることのできたデータは限られたものであり、それ以降に行われた調査のデータは反映しておりませんので御留意下さい。

○液状化危険度分布図

液状化とは、地震の揺れによって砂粒が相互にかみ合っていた状態がはずれ、土が泥水化する現象です。埋立地や河口など水分をたくさん含んだ砂質の地盤で発生する現象で、噴砂や地盤沈下を伴います。

平成23年東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）では、震源域から遠く離れた東京湾岸でも広域に発生し、巨大地震では遠方でも発生することがわかっています。

液状化危険度の判定には、PL値を用いました。PL値とは、その地点での液状化の危険度を表す値です。推計は250mメッシュ単位で行いました。



※液状化危険度分布図を参照する際の注意事項

液状化危険度分布図は、250mメッシュ区域内の平均的な地盤データに基づき液状化の判定をしていることから、そのメッシュの中には液状化危険度が異なる地盤が含まれていることがあります。

液状化危険度が高い地域においても、既に、地盤を改良して土地利用されている場所や、液状化対策を実施しているところもありますが、この分布図では考慮していません。逆に、液状化危険度が低い地域においても、ため池等を埋め立てたような箇所は液状化の可能性は高くなります。今後、建築物の建築や開発行為などを行う際には、個々に地盤調査を実施していただき、対策の検討を行っていただくことを推奨します。特に、過去に液状化が発生した場所では、大規模な地震が発生すると液状化が起こりますので、調査を実施することを推奨します。

参考：岡山県HP「南海トラフ地震による震度分布図・液状化危険度分布図について」